発行者
公益社団法人　関西吟詩文化協会
公認 華洲会（広報紙）
発行責任者　会　長　山口華雋
編集責任者　広報部長　竹本瑞鼓

「華」第68号　発行:平成29年10月31日

主な記事

2面　競吟各部優勝者コメント
3面　優勝者コメント　運営委員長から
4面　未来塾「おくの細道」を学ぶ
5面　未来塾「古賀千翔先生」指導
6面　琵琶湖吟行「修学旅行気分」
7面　会主　三浦華洲先生の漢詩を学ぶ　他
8面　山口会長、関吟会長を勇退　他

再入会促進キャンペーン実施中

特典：平成30年3月末迄は、入会金の免除と「漢詩詳解」を進呈

平成29年度華洲会第46回競吟大会
競吟に新たな活力源、和歌の部を設ける

平成29年度華洲会第46回競吟大会は10月9日大東市立文化会館キラリエホールにて会員163名、外部からの競吟審査員9名参加のもと開催し、本年度は和歌の部を新設し新たな活気が生まれる中での開催であった。

山口華雋華洲会会長はご挨拶で、出吟者を激励するとともに会員増員の感謝を述べた。

華洲会会長
山口華雋

今日この競吟会に出場頂いた会員の皆さんの吟詠は一歩上達しています。出場毎に又上積みして頂いて一歩一歩前進していただければと思います。一挙に10段あがろうとする人はひっくり返ることもあります。今日も見ていますと皆さんなかなか燃えてきていますね。情熱が籠っているのを感じます。華洲会も若い人たちも含め吟力も随分上がって来ているなと感じ感謝をしています。けれども、まだまだ上があります。だから今日賞を取った人も驕ってはいけません。

愛連二部吟士権を関西吟詩が二年連続獲得しました。次は華洲会の中から愛連吟士権者が出てほしものです。

本年関西吟詩の増員表彰を受けた会が二つありますが、その一つが華洲会です。非常に誇らしいと思っています。

本会には優秀な吟者も指導者も随分居ます。今現在、華洲未来塾を開講しており、そこには60人ほどの方々が研修に参加いただいています。新しい教場を開設すべく情熱を燃やして頂いている。この情熱が吟にも会員増強にも繋がっております。

皆さんと一緒になって三浦華洲先生が築いていただいた華洲会をより発展させて行きたい。

第46回　華洲会　競吟大会　（平成29年10月9日）

	優勝		準優勝		準々優勝	
出吟区分	氏名	所属支部	氏名	所属支部	氏名	所属支部
新人の部	松下恵子	多田東	東野　昭	川西豊友	日高みさ子	野崎観音
初級の部（一部）	川田麻衣子	雋詠寺川	西村恵子	雋詠寺川	松村むつみ	雋詠寺川
初級の部（二部）	坂根英生	川西大和	小笠原邦彦	雋詠寺川	中根達博	丸の内中央
上級の部（一部）	奥山久美子	雋詠寺川	鮫島秀一	川西北	箱田久美子	川西北
上級の部（二部）	中野宣子	ソレイユ	林 多美子	多田東	河田一彦	多田東
師範代の部	岡　進	雋詠寺川	片山節子	多田東	小川　宗三	雋詠伊賀
準師範の部	樫村節雄	川西北	上坂逸子	鳳吟大江	宇野麗子	勢多
師範以上の部	嶋﨑樹里	野崎観音	藤原忠尚	京阪樟葉	入口みどり	雋詠寺川
決勝の部	樫村節雄	川西北	入口みどり	雋詠寺川	岸場さち子	鳳吟大江
和歌（一般）の部	中野宜子	ソレイユ	坂根英生	川西大和	五十棲俊次	雋詠京都
和歌（指導者）の部	箱田　稔	川西北	今井美津子	川西大和	中村房恵	川西北
奨励賞	安田寿美子	丸の内中央支部		高齢にもか拘わらず、お元気で吟詠された85歳以上の方		
平成29年度から	竜田敬三	燁吟支部				

競吟　優勝おめでとうございます

優勝者の皆さんから①詩吟を始めたきっかけ②吟歴③優勝の感想④練習方法⑥詩吟の楽しみなど、大会後一週間でコメントを頂きました。（多くは電子メールでの投稿です）

気の引き締まる思い

新人の部　多田東支部　松下恵子

私が詩吟を始めたのは、中学の時３年程と、社会人になった頃３カ月程習っていました。半年程前、田中先生に教わるまでは詩吟から離れていましたが、仕事を辞めて何か手習いをしたいと詩吟を始める事にしました。

優勝した事は大変うれしいですが、気の引き締まる思いと同時に少し気が重い感じもしております。

指導していただいている田中尚叡先生は、熱心かつ丁寧に教えて下さいますので大変感謝しております。

先生に指導していただいた所を録音し繰り返し練習したり、食事の準備中に楽しんで歌ったりしています。

目標は少壮吟士

初級の部（一部）　雋詠寺川支部　川田麻衣子

住んでる地区での集まりがあり、そこに初めて参加した時に「詩吟とか舞に興味ない？」と先生に声を掛けられ、踊りは好きなので「見学から」と道場に行ったら、そのまま詩吟をする流れになりました。

初めは人前で声を出すのが嫌で、早く辞めたいと思っていました。でも奥山先生が来られた時、初めて奥山先生の吟を聞いて感動しました。それが４年前です。それからは上手くなりたいの一心です。

３年前に華洲会の新人の部で３位になりました。それが嬉しくて今では毎日出勤の車の中、勤務中の移動時、退勤時の車の中と、車に乗ってる間は必ず練習しています。目標は少壮吟士。まだ、声を出すのが精一杯で、詩情表現や詠みなど全く出来ていません。詩の意味を理解して詩吟をするまでにはまだ何年もかかりそうです。

でも、目標を持つと、コンクールの結果が良くても悪くてもまた頑張ろうと思い、辞めたいなと思わなくなりました。一つ一つの積み重ねが大きな変化に変わるまでは時間もかかります。でも、結果が出るとまた自信に繋がります。今は詩吟も詩舞も先生方に恵まれ、充実した毎日を送れる事に感謝です。

早３年半の月日が経ち

初級の部（二部）　川西大和支部　坂根英生

朝のラジオ体操で岡島先生にお会いし，これがきっかけで詩吟を始める事になりました。先生の熱血指導と良き仲間に恵まれ練習の他に、飲み会や旅行等も楽しみ、早３年半の月日が経ちました。

努力してやっと階段を一つ登ると直ぐに新しい課題が現れ，これに挑戦する楽しみが広がります。これが詩吟の魅力かな？とも。

今年は競吟用として櫻井訣別を撰びました。誤読による失格も経験しましたが、最後にこのような賞に恵まれ満足の一年となり感謝しております。

先生にとても感謝

上級の部（一部）　雋詠寺川支部　奥山久美子

詩吟を始めてから初めて優勝をいただきました。とても嬉しいです。なかなか上手にならなくても、いつも温かく見守り励まして練習して下さった先生にとても感謝しています。また、詩吟の先輩方も会うたびに声を掛けて下さり温かい気持ちにとても励まされました。詩吟の練習をすればするほど、奥が深く難しくなってきますが、先生が教えて下さる一つ一つを自分のものに出来るよう、これからもがんばって練習したいと思います。

思いがけない喜び

上級の部（二部）・和歌（一般）の部　ソレイユ支部　中野宣子

若い時から詩吟が好きでしたが、ご縁ができたのは八年前の事で、京阪くずは支部で濱田華堯先生にご指導していただきました。

浜田先生が昨年ご引退された後は奥山紅雋先生のご指導を受けています。

十月九日の大会で和歌の部と詩吟の部で優勝できました事は、私にとって全く思いがけない事であり、この上ない喜びで胸が一杯です。

これからも気持ちを引き締めて毎日を頑張って行きたいと思っております。

諸先輩方の魅力に引き込まれ

師範代の部　寺川雋詠支部　岡　進

「船を造りたいなら、男達に木を集めるように呼び掛けたり、仕事を割振って命令する必要はない、代わりに、彼らに広大で無限な海を冒険する意欲を呼び起こさせることだ」と言った作家がいます。華洲会の諸先輩方の魅力に引き込まれ、気づいたときには、かなり沖へ出てました。でも広く、深い海の航海は始まっ

たばかりです。この先の冒険も楽しんでいきたいと思います。ありがとうございます。

うれし涙が溢れ満つ
準師範の部・総合決勝
川西北支部　樋村節雄

春夏秋冬幾年か、詠じ続けて早や九年。いつか華洲の花となる、夢を咲かせしこの大会。拙き腕には重すぎる、二つ並んだ金杯（準師範・総合）に、うれし涙が溢れ満つ。これも偏に会長様や、川西北のお師匠様や、数多の友のお陰ぞと、思えばまたも溢るる涙。春はつばくろ秋は雁、昨日は今日へまた明日へ、めくる暦の果てしなく、歩み続けん吟詩道。巻頭言の心汲み、声高らかに吾詠ず、詠詩の内の情と景「飛雨蕭蕭孤雁鳴く・・・」

「まだ先を」
師範以上の部
野崎観音支部　嶋崎樹里

詩吟を始めて十六年になりました。母が講師で素直に指導を受けとる、ということが少ない私ですが、そんななか、会の方々の応援やご指導を受け、ここまでくることができました。少しでもそれに応えることが出来たかな、と思う反面「ここで満足するな上には、上がいる」という山口会長のお言葉通り、今回の結果は次への成長の為の一歩なのかもしれません。日常はなかなか練習できませんが、職場で声を出すときにも、腹に意識を持って声や言葉を出す、など少しずつ工夫をして、次に繋げていきます。

今年からもう一度初心に帰って
和歌指導者の部
川西北支部　箱田　稔

吟歴は十二年です。和歌の（指導者の部）出吟させてもらいましたが予想外の結果に頭髪が抜ける程びっくりしました。教えをいただいた諸先生に感謝します。

私は変にガンコな所があって諸先生の教えを素直に受け取らず教えを自分流に曲解し、山口会長が言われる「下手を固める」結果になっていましたが、今年から初心にもう一度帰って素直な良い子？に戻り人生（吟生）をやり直すべく努力しております。

「詩中の人」の足元にも及びませんが作者の詩の背景や詩情の理解に努め読み語りに生かせたらうれしいのですが・・・・

奨励賞をいただいて
ただただビックリ
丸の内中央支部　安田寿美子

表彰式で突然名前を呼ばれてびっくりしました。

教室ではいつも楽しくお勉強させて頂いています。健康に気をつけながら続けて行きたいと思っております。ありがとうございました。

【競吟各部入賞者】

新人の部
荒川一聡（雋詠寺川）草留和美（多田東）中西彰（丸の内中央）田中計久（多田東）

初級の部（一部）
奥野君子（多田東）西田恵美（野崎観音）西川慶子（雋詠寺川）中村久美子（ソレイユ）秋月俊也（雋詠寺川）前田初美（野崎観音）中山清和（清和台）

初級の部（二部）
礒田孝潤（鳳吟大江）小川佐千代（多田東）岡本好見（雋詠寺川）

上級の部（一部）
福田和美（川西大和）甲斐五郎（丸の内中央）

上級の部（二部）
若林成和（燁吟）里幸二（清和台）渡辺博（多田東）中野能孝（多田東）成田研一（多田東）樋口智裕（川西北）谷和代（多田東）柏原美佐子（野崎観音）森本初代（野崎観音）小畠進一郎（川西北）富田英孝（多田東）

師範代の部
中村陽子（多田東）齋田隆雄（川西北）仲元幹雄（多田東）岡部幸子（多田東）中野五（学園）中谷四郎（鳳吟大江）

準師範の部
辻總一郎（多田東）江崎一吉（四条楠公）向井博子（雋詠寺川）金子恭子（多田東）安藤キミ子（丸の内中央）市木美和子（雋詠京都）

師範以上の部
吉田守（鳳吟大江）安達悦子（雋詠伊賀）山下智之（丸の内中央）伊々田和子（川西北）

和歌（一般）の部
岡進（雋詠寺川）樋口智裕（川西北）奥山久美子（雋詠寺川）加川秀子（雋詠京都）中村千賀子（川西北）前田初美（野崎観音）

和歌（指導者）の部
岸場さち子（鳳吟大江）嶋崎樹里（野崎観音）宇野麗子（勢多）末延喜美子（雋詠寺川）中村陽子（多田東）向井博子（雋詠寺川）黒川幸子（京阪樟葉）

「競吟大会を終えて」
大会運営委員長　中村尚瑛

皆様のお陰を持ちまして何とか大会を終了出来ました事をまずお礼申し上げます。

特に目に触れない処で支えて頂いている証書係、計算係の皆様には、感謝申し上げます。

しかし残念な事も有りました。きっちりと証書をお書き頂いていたにも拘わらず決勝の部の証書が、舞台裏で取り紛れ表彰の時に無かった事です。証書係さんの責任では有りませんでしたのに、申し訳なく思っています。

又、伴奏曲の編集ミス等も有り、ご迷惑をお掛けしました。これらの事を踏まえ、今後に向けて改善して行きたいと心を新たにしているところです。皆様のご協力宜しくお願い致します。

平成29年度第一回目　華洲未来塾　新指導者養成講座

「おくのほそ道」松尾芭蕉を学ぶ

この講座は昨年に引き続き89名の参加（研修部・教養部9名を含む）を得て開講。第1回目は研修部員園部奎雋先生の解説で以て「おくの細道」を学習

この旅は「歌枕」の場所を訪ねる旅であった。

「おくのほそ道」の冒頭の所などは中学校の生徒には暗唱をさせる程完成された文である。

紀行後5年、俳句を作り直したり文章も書き直したり推敲に推敲を重ね芭蕉没後発行された。紀行文ではあるが一つの芸術作品・散文詩として捉えている学者もある。冒頭の文章は何一つ無駄な言葉が無く自分の言いたいことが表現されている。素晴らしい文章であると思います。

冒頭の「月日は百代の過客」ですが、これは李白の「春夜宴桃李園序」に書かれている「夫天地者万物之逆旅　光陰者百代之過客、而浮生若夢」の文章を借りていると言われています。

これは平家物語の「祇園精舎の鐘の音諸行無常の響きあり」の言葉を思い浮かべる人もおられるかと。

芭蕉は伊賀上野の下級武士の子供として生を受けた。同藩・藤堂良忠の子小姓として勤めていた。良忠が俳諧が好きで自分も学んだが、芭蕉23歳の時に仕えていた良忠が死去。その後俳諧の道に進むべく京都に出て、さらに江戸へ。

江戸にて弟子杉風の世話になる。

当時、俳諧は言葉のお遊びであった。

先ず、漢詩に対する和歌があり、その中で長歌・短歌・仏足跡歌などは、「5，7，5，7，7」を基にした形である。「5・7・5」を作る人「7・7」を作る別の人。この中で言葉遊びをする。即興的なおかしみや滑稽味が歌の内容の中心となる連歌が生まれてきた。俳諧の形式は連歌と同じであるが、気軽さや機知・滑稽を主とした文芸として確立していった。

松尾芭蕉は遊戯的となってしまった俳諧の芸術性をさらに高めようとし、蕉風を確立した。明治に入り、正岡子規がこの俳諧の発句を俳句と呼びこれを定着させた。

この紀行文はフィクションもあるし、こうあってほしいという部分と、本当の部分も入り混じっている。この細道は四区分にわかれ歌枕の旅宇宙の旅　人との別れと区分されていると言われている。

冒頭

『月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老をむかふる物は、日々旅にして旅を栖（すみか）とす。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風にさそはれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへて、去年（こぞ）の秋　江上の破屋に蜘の古巣をはらひて、やゝ年も暮、春立る霞の空に白川の関こえんと、そゞろ神の物につきて心をくるはせ、道祖神のまねきにあひて、取もの手につかず。もゝ引の破をつゞり、笠の緒付かえて、三里に灸すゆるより、松嶋の月先（まづ）心にかゝりて、住る方は人に譲り、杉風（さんぷう）が別墅（べっしょ）に移るに、

草の戸も住替る代ぞひなの家

面八句を庵の柱に懸置。』

出立

『弥生も末の七日、あけぼのの空朧々として、月は有り明けにて光おさまれるものから、不二の峰幽（かす）かに見えて、上野・谷中の花の梢、又いつかはと心細し。

むつまじきかぎりは宵よりつどひて舟に乗りて送る。千じゆと云所にて船を上がれば、前途三千里の思ひ胸にふさがりて、幻のちまたに離別の泪をそそぐ。

行く春や鳥啼魚の目は泪

これを矢立の初めとして行道なをすゝまず。人々は途中に立ちならびて、後ろかげのみゆる迄はと見送るべし。』

受講者感想

関吟の吟詠はもっぱら漢詩吟詠がその多くを占め、和歌俳句の吟詠は、構成吟に組み込まれて聞く程度であり、教室で受講する機会は少ない。本年度から華洲会競吟に和歌が組み込まれ、会員それぞれ意欲新たに勉強していると聞く。今回、俳句の世界における大先達・芭蕉の紀行文の勉強が出来たことは、『文字の中身を背景を理解し吟詠をしてください』と言う取り組みを実践でき、今後に向け生かして行けると思います。

平成29年度第2回華洲未来塾
講師　総本部総師範　古賀千翔先生

下手ぞとて我とゆるすな稽古だに　つもらばちりも山とことのは

平成29年8月29日アステ川西6階市民プラザにおいて今年度第2回目の華洲未来塾が開催、古賀千翔講師先生への期待も高まり会場は満席となりました。

冒頭、先生のご挨拶の中で、「華洲会では、吟詠上達の研究として華洲未来塾が開かれています。上達には環境が大切ですがこの会はコーチ・監督・師匠がいる素晴らしい会だと思います」とお褒めの言葉を頂きました。

講演では、多方面に亘り具体的な示唆をたくさん頂きました。筆者なりにそのポイントを整理いたしました。

自分の基本パターンを持つ

・基礎である腹式呼吸をしっかり鍛えるために、臍に力を入れ、かかとを上げ万歳して下ろす動作を一日30回以上は続ける。

・どんなものにもチャレンジする気力を持つ。

・習い上手になろう。

心の持ち方

・自分自身は敵であり味方である。吟詠している2分間は自分だけの時間。全力集中して吟じる。

・自信を持ち、場に呑まれないこと。

・競吟では舞台で心が落ち着ける方策を自分なりに工夫する。膝を緩めるのも一方法。

・寝言でも詠え。

発想の大切さに気づくこと

・吟題の研究をしっかりして詩の背景を理解し、発声や表情に個性を持つ。

・声を創る。舌の力・目の力・表情も。いろんな表現の仕方を自分で工夫する。

・自分の体が楽器である。

吟詠指導をする
古賀千翔先生

詩情

・吟詩も物語である。登場人物になりきって吟詠する。

・ことばや表情に心がこもっていなくてはならない。

・声は創るもの。

声のボリュームと声の色（トーン）で表現する。

・言葉の色を出そう。

・状況によって自分の色を出す。息を混ぜることも。

・一色で歌うことは下手ではないけれど、上手でもない。

・間をしっかり持つ。コンマ○秒で情景描写にとても変化をもたせる効果あり。

・詩文の読みは粘って。

・自分の声（音色）を知る

発声

・発声を生かすには発音をしっかりやる。

・良い声は聴く側の好み。

・声は創るもの（場面状況を彷彿させるように）。

・からだを使った発声を。

・唇を閉じ空気をブブブルと出す。腹式呼吸にも最適。芝居のように一人二役で発声練習して個性的発声を磨く方法もある。

発音

・活舌の練習パターンの例

「アエイウエオ　アオ　アアアア」

「カケキクケコ　カコ　カカカ」

「サセシスセソ　サソ　サササ」

「ナネニヌネノ　ナノ　ナナナ」以下「ハマヤラワ」と一語一語に張りを持って。

・日本語は111拍ある英語は2万拍以上ある。

音程

・言葉を読み切った時、音程が下がらないよう気をつける。

以上、多角的にご教示頂きましたが、その中で

「島津日新公いろは歌」

『下手ぞとて我とゆるすな稽古だに　つもらばちりも山とことのは』

もご紹介いただきました。

そのこころは

「自分がいろんなことに下手だと卑下して努力を怠ってはいけない。稽古さえ積めば少しづつ進歩して、遂には上手になれる。ちりも積もれば山となるとのたとえもあるではないか」でしょうか

◇**「日新公」**とは「島津日新斉忠良公」(1492～1568)のことで36歳の時、髪をそり「相模守入道日新斉」と号する。

平成30年度 昇段課題詩　華洲会

区分	番号	新教本等	旧教本	吟　題	作　者
初段	1	A1-2	A2-1	偶成	朱熹
	2	A1-6	A7-1	示塾生	廣瀬淡窓
	3	A1-7	A9-3	白帝城	李白
	4	A1-11	A14-2	芳野懐古	藤井竹外
	5	A1-13	A17-1	金州城	乃木希典
二段	1	A3-86	A27-2	蘇臺覧古	李白
	2	A3-91	A29-2	感事	于濆
	3	A3-107	A36-1	秋思	張籍
	4	A3-137	A67-2	秋思	許渾
	5	A3-140	A67-5	八幡公	頼山陽
三段	1	Bその1	B2-1	黄鶴樓	崔顥
	2		B6-3	九月十五夜	菅原道眞
	3	Bその2	B16-2	遊山西村	陸游
	4	単本	B31-1	籐王閣	王勃
	5	Cその2	C20-2	聞荒城月夜曲	水野豊洲
四段	1	Bその1	B3-3	萬歳樓	王昌齢
	2	Bその2	B12-2	筑前城下作	廣瀬淡窓
	3		B17-2	酌酒與裴迪	王維
	4		B18-1	遣興	文天祥
	5	単本	B32-1	詠富士山	柴野栗山

吟詠歌謡研修in琵琶湖　外輪船一番丸で大合唱

湖畔を巡り～操る舟の♪ 行く手に瀬田の～茜雲♪

曇天の9月7日、華洲会会員90余名が吟詠歌謡研修に琵琶湖湖畔に集結。

この企画は、藤原尭晟企画部長の3年越しの企画で今回実現。

研修会場は瀬田川中洲に位置する老舗料亭「あみ定」ここは、琵琶湖八景の一つである瀬田の唐橋の間近にあります。

研修に先立って、互礼を行い巻頭言唱和・華洲会歌合吟・の後、山口華雋会長からご挨拶をいただきました。

会長はご挨拶で「瀬田橋を制する者は天下を制する」京都防衛上の最重要地であるとご紹介。

研修はキングレコード専属歌手中谷将鳳先生のリードにより2曲を研修。研修課題曲は中谷先生レコーディングの吟詠歌謡「近江湖愁」と京都大学の学生歌「琵琶湖周航の歌」

歌を唄うには詩の理解が先ず必要ということで歌詞の解説を。近江湖愁には中国洞庭湖の瀟湘八景になぞらえた近江八景が読み込まれている。その八景を逐一詳細にご説明いただきました。

テンポに気をつけながら歌詞に思いを載せて伴奏に合わせること、休止符は楽譜に従って休む事等をご指導。参加者はしっかり詠い気持ちを発散させるとともに吟詠歌謡の奥深さを堪能致しました。

研修後、昼食は瀬田川の風景を楽しみながらワイワイ言いながら少しビールも頂きほろ酔いに。

その後、紫式部ゆかりの花の寺「石山寺」を訪れ、集合記念写真。参拝後にはこの日のもう一つの楽しみ、昔懐かしい外輪船「一番丸」に乗船。

クルージングで歌をリードする中谷先生

瀬田川流域から雄大な琵琶湖へのクルージングに出発しました。

当日は曇天で研修中は雨も激しく降っていましたが、幸いに移動中は傘なしで出来、船で遊覧中も小雨微風状態で幸運でした。

当日の特筆は何といっても貸し切りの船中で、中谷先生の琵琶湖のご案内と再度研修の歌を皆で大合唱できたことです。

「湖畔を巡り操る舟の♪ 行く手に瀬田の茜雲♪近江の旅は水清く黛彩に峰染めて♪ 石山寺のあゝ月清か♪」

♪声を揃えて歌い♪ 修学旅行気分を味わった

吟行で近江の国へ

野崎観音支部　髙橋玲子

朝から微妙な空模様、晴雨兼用傘をカバンに入れて家を出た。本日は吟行「吟詠歌謡研修&琵琶湖クルーズ」に参加の為、集合場所石山駅へ。90名を超える参加の方々。料亭「あみ定」まで案内している企画部員さんお世話様です。

中谷先生髙橋さん指導

研修は、中谷先生による「近江の歴史と吟詠歌謡」

琵琶湖は滋賀県の面積、六分の一を占める大きさがある。古い歴史を誇り史跡、景勝地も多くある。そこで漢詩「近江八景」を中心に話しますとの事。まず唐橋の説明をされて、急がば回れの語源にもなっていると。また、近江八景と言いながら大津市七箇所、草津市の一箇所が読まれている事。場所に纏わる話には、また訪れたいと思いました。

続いての吟詠歌謡の研修。先生のオリジナル「近江湖愁」「琵琶湖周航の歌」の2曲。研修後に教わった曲を、箱田さんが美声で披露、高橋も挑戦するが大失敗。でも、中谷先生にお借りしたマイクの感度に感動でした。

「あみ定」のお料理を楽しんだ後、石山寺の参拝へ。本殿では、大上先生の御詠歌を聞きながら観音様と繋がった五色紐を手にお参り。お寺の方のにこやかな顔と目が合い何かご利益を頂いた気持ちになりました。

外輪汽船「一番丸」のクルージング、湖上からの景色を中谷先生のガイドで楽しみ、研修で憶えたての「近江湖愁」「琵琶湖周航の歌」を全員で声を揃えて歌うという修学旅行の雰囲気を感じていたのは私だけだったのでしょうか。

心配していた雨も外歩きの時には止み、企画部・女性部皆様ありがとうございました。お陰で充実した一日を過ごせました。

会主　三浦華洲先生の自作漢詩を学ぶ

遊嵐峡　三浦華洲

秋晴一日訪仙郷○
奇嶂参差誇麗粧○
溪水潺湲情蓋耐
枕流求句滌塵腸○

「字　解」

遊嵐＝嵐山の麓の山峡

仙郷＝俗気を離れた気高い地

奇嶂＝屏風のように連なる高く険しい山

参差＝互いに入り交じり長短不揃いなさま

麗粧＝麗しく美しい景色

潺湲＝水のさらさら流れるさま

沈流＝水流を枕する

塵腸＝俗世間的な汚れた心

「意　解」

秋晴れのひ、俗気なき聖地嵐山を訪ねた。屏風のように連なる高く険しい山が入り交じる。谷川はさらさら流れて、その風情にどうして感動せずにおられようか。清らかな流れの傍らで詩を題すれば、俗世間的な汚れた心が洗い清められる様だ。

「備　考」

この詩の構造は平起こり七言絶句の形であって、下平声七陽韻の郷、粧、腸の字が使われている。

嵐峡に遊ぶ　三浦華洲

秋晴　一日　仙郷を　訪ぬ
奇嶂　参差　麗粧を誇る
溪水　潺湲　情　盍ぞ　耐えん
枕流　句を求めて　塵腸を滌う

百人一首・万葉集の漢詩訳に挑戦

ソレイユ支部　講師　坂本克綜

去る五月「詩游クラブ」漢詩鑑賞会に於いて、近藤鷲酒先生の「百人一首・萬葉集の漢詩訳」の講話を拝聴し、チャレンジしてみました。

《百人一首》より

出典：後撰集（巻六）より

作者：文屋(ふんやの)朝(あさ)康(やす)生没年未詳。九世紀後半から十世紀初めの人

白露に　風の吹きしく　秋の野は
つらぬきとめぬ　玉ぞ散りける

【通釈】草の葉の上にいっぱいたまっている白露に、風がしきりに吹いている秋の野は、しっかりと糸に通していない白玉（真珠）が、はらはらと散りこぼれるように、白露が散ることであるよ。

【漢詩訳】

「白　露」　韻：東

離離秋草點金風
朝露団団燦彩虹
變幻舞天何處去
幽懐如夢興無窮

・離々(りり)たる　秋草(しゅうそう)　金風(きんぷう)に點(ひるがえ)り

・朝露(ちょうろ)　団々(だんだん)　彩(さい)虹(こう)に燦(かがや)く

・変(へん)幻(げん)　天(てん)に舞(ま)い　何(いず)れの処(ところ)にか去(さ)る

・幽(ゆう)懐(かい)　夢(ゆめ)の如(ごと)く　興(きょう)窮(きわ)まり無(な)し

【語意】

離離：くさの生茂るさま。ならびつらなるさま。

団団：つゆの結ぶさま。まるいさま。「秋露白如玉。団団下庭緑」李白詩

変幻：まぼろしのように、たちまち現れたちまち消えること。

華洲会　後期昇段試験　実施
平成29年9月23日大東市民会館にて実施

昇段受験者は初段8名、二段11名三段16名四段8名。

講評では初段二段は岡島彩鼓先生、三段四段は奥山紅雋研修部長。初段の方は緊張されながらも朗々と吟じられ、高段の方も吟法は難しかったのですが「よく練習されている」との総評であり、その後詳細の指摘がなされた。

昇段受験は、漢詩の勉強をする機会を得られ、勉強することにより、詩の理解が深まり詩情表現に繋がり「漢詩と吟との両輪として益々上達する」と述べられた。

「指導」ポイントは

①言葉の読みをアクセントに注意し、キッチリ丁寧に

②言葉の読みが早い方が多かったです。相手に伝わるようゆっくり目に

③個々の吟法を点検し丁寧に

④発声は体で支えて

⑤言葉と節を切る

⑥言葉は詩文の意味を踏まえながら語る気持ちで淡々と

⑦吟詠は母音の響き、工夫を

「山口華雋　華洲会会長　関吟総本部会長勇退」お疲れ様

「平成29年6月24日開催の華洲会常任理事会で金一封を添え花束を贈呈」

山口会長ご挨拶

私のことでお気遣い頂いて有難うございます。

関吟会長は、この間の6月3日の関吟総会で無事、地蔵哲皚新会長に引き継ぎいたしました。

本当にあっという間の4年間でありました。よく考えてみますと、何もしていないというのが本音のところで、やりたいことが出来なかったなと。やりたいことを全部やれば関吟がひっくり返ってしまうかも。やはり会館は建てたかった。経費がかさばるが、その時はその土地を売却すれば対応できると。新しいところはこれから拓ける所であったので、期待はしていたが。皆さんなかなか消極的であったので、強引にできなかった。本当は会館を建てたかった。

それと関吟の会員数を減らすのが止められなかったのが残念。しかし何といっても私の任期中に華洲会の会員数が増えたのが非常に有難かった。

あれもこれもやれたのは、華洲会の山口華雋があって初めて出来たことで、会長にもさせてもらって、そういう意味で三浦華洲先生に少しは恩返しが出来たかなと思っている。

しかし、やらなければならないのは、これからだと思っている。これから大阪地区連の理事長として、今度は直接、府連・愛連・財団に繋がっているという形にもなります。先ず何といっても華洲会を盛り上げないと。何をするにしても元は華洲会ですから。皆さんと力を合せ元気で詩吟を楽しむ会になっていったらうれしいなと思っています。

平成29年度 前期昇段

3級　吉田昂斗（川西豊友）
宮部茉由（川西豊友）
大森海渡（川西豊友）
入口寛都（雋詠寺川）

初段　中谷美津江（鳳吟大江）
井野義史（指月）
遠藤兵庫（多田東）
廣瀬千鶴子（多田東）

二段　堀江栄子（川西北）

三段　中村久美子（ソレイユ）
中村千賀子（川西北）
中根達博（丸の内中央）

四段　冨田英孝（多田東）

五段　中谷四郎（鳳吟大江）
中村忠司（雋詠伊賀）中村伸子（雋詠伊賀）鈴木俊夫（雋詠伊賀）松田脩（雋詠伊賀）仲元幹雄（多田東）岡部幸子（多田東）

六段　片山節子（多田東）
上田和子（丸の内中央）
安藤キミ子（丸の内中央）

七段　石元三枝子（鳳吟大江）

平成29年4月～10月　入会
＊再入会　※子供

4月　井元かよ子（ソレイユ）
今井正江（ソレイユ）新井川カツ子（ソレイユ）中辻政美（雋詠京都）上田勲＊（ソレイユ）児玉愛子（ソレイユ）林達三（ソレイユ）中野保博（ソレイユ）中村鎮雄（ソレイユ）西村幸殷（ソレイユ）嵜照美（ソレイユ）坂本照子（ソレイユ）竜田伊勢子（燁吟）

5月　佐野節子（川西大和）

6月　三牧孝男（川西大和）前田肇（京阪樟葉）佐野節子（川西大和）山本蒼依※（雋詠京都）山本創太※（雋詠京都）深谷千賀（雋詠京都）中西彰（丸の内中央）上川大紀（清和台）竹本帆華※（清和台）毛利櫂大※（清和台）北田聖弥※（清和台）山西寛（丸の内中央）

7月　寺本美代子（川西大和）寺本時子（川西大和）今井廣子（川西大和）林　圭子（川西大和）坂部美智子（川西大和）立川秀幸（丸の内中央）高木皆子（川西北）鈴木マリ子（ソレイユ）梶尾君子（ソレイユ）鈴木秀雄（ソレイユ）

8月　清藤禮次郎（雋詠寺川）隅田恵子（丸の内中央）

9月　柳井登一（丸の内中央）奥屋益実（雋詠伊賀）

◇ご存知ですか◇

★分会設立祝い金＝分会新人3人以上で半年継続ならば、従来通り3万円の助成

★支部設立＝会長名で表彰状と花束贈呈

★華洲会費＝9月末会員数で12月に後期会費納入

★旅費1万円助成＝財団全国吟詠コンクール、少壮吟士認定全国大会出場者に

★吟詠Xmas会＝12月17日門戸駅前じゅとう屋にて

投稿　吟詠川柳

多田東支部　宮里叡義

○河原で大声はりあげ詩を吟ず
○一人湯で鼻歌まじりの詩を吟ず
○競吟で私の廻り手ごわい人

丸の内中央支部　竹本瑞鼓

○静動間どこの馬だと友が聞く
○段下がり注意肝心余韻もね

【編集後記】

秋号のトップはやはり競吟会です。今年は、会長の肝いりで和歌の部が設けられ、指導者の部と一般の部いづれも意欲満々の参加で、吟詠とは異なり柔らかな声が会場に響いた。また会員高齢化を反映し、高齢者に奨励賞を授与。吟詠意欲増進剤となった。

会員増の秘策は見当たりませんが、情報として会員増強祝い金支給の規定を掲載。

今回、名言・名句は休み、替わって、投稿川柳を掲載。